

技術交流の場

今年5月、中間法人日本住宅基礎鉄筋工業会が設立され、積極的な活動を展開している。住宅基礎のレベルアップが同工業会の目的だ。設立趣意書を紹介しておこう。

「阪神・淡路大震災などを契機に建物の防災性や安全性がより一層求められている。基礎鉄筋は住宅基礎の構造材として住宅の安全性を左右する非常に重要なものである。しかしながら、現状では住宅基礎用溶接鉄筋にも様々な仕様が存在することから、統一した品質水準が必ずしも確保されているとはいえない状況にある。

この住宅基礎用溶接鉄筋について、品質保証、標準化、規格化を図っていくことは、①住宅品質の向上、安定供給に寄与

日本住宅基礎鉄筋協会(上)

飛躍する地域ビルダー

ハウジング・アナリスト 松下寛光-47

する②住宅供給業者の信頼確保に結びつく③消費者保護・満足度向上に繋がる」とある。確かに、住宅基礎は構造の中でも、最も重視しなければならない。このことは昔から誰もが指摘し、認識もされてきた。したがって、こうした住宅基礎の技術向上を目指す団体が、すでに存在していると思っていたが、今回、初めて全国の業者が一同に会し、設立されたという。それまでの経緯を、事務局では次のように話す。

基礎品質向上目指し

26社結束し全国組織設立

「この10月からは、住宅基礎の資材を扱っている企業に、賛助会員として参加してもらおう呼びかけも開始しました。すでに13社から入会の意向を」

賛助会員も募集

「この10月からは、住宅基礎の資材を扱っている企業に、賛助会員として参加してもらおう呼びかけも開始しました。すでに13社から入会の意向を」



5月に開催された設立総会の模様

この頃からは鉄筋入り基礎の普及がはじまる。しかし、無筋でも建築基準法上では違反ではなかった。やっと基準法で法制化されたのが平成12年である。耐久性のことを考えると、躯体に比べ基礎は遅れているだけに、同工業会の活動に期待が集まる。

データ

事務局 東京都新宿区新宿4-2-23、山口龍二理事長、03-33353-1137